

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 16 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26463373

研究課題名(和文)子育て支援としての子育て期女性の健康指標の策定

研究課題名(英文)Health index among child rearing women as a social support strategy

研究代表者

関島 香代子 (Sekijima, Kayoko)

新潟大学・医歯学系・准教授

研究者番号：90323972

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：久しく少子化が指摘されて社会全体の重大事項として取り組むものの低下した出生率の明らかな増加傾向は認めない。子育ての現状と社会の認識とに隔りがある。そこで子育て期早期における「出産後女性の身体は、ホルモン動態、身体状態は妊娠前と同様に回復あるいは変化しているのか」、「母親とパートナーの睡眠状態」を客観的主観的かつ縦断的に明らかにし、健康指標を検討した。結果では、出産後6ヶ月を経ても4割しか月経が回復しておらず、母親パートナーとも1ヶ月頃の身体不調と睡眠の不良が明らかになった。これまで見逃されてきた子育て期の健康指標として、出産後女性の月経回復、パートナーの健康状態が明らかになった。

研究成果の概要(英文)：The low birth rate has been pointed out and wrestled as a serious social health problem for a long time. There might be the difference between actual childcare situation and the social recognition. So, we aimed to be clarified hormonal conditions the physical health among mothers before and after childbirth, and sleep disturbance among mothers and her partners objectively and subjectively. As the results, majority of mothers unique hormonal conditions which had not recovered before pregnant state yet after six month of childbirth, much disturbed sleep had kept to after three month even in their partners at one month after childbirth. The need including the menstruation recovery of the woman after childbirth and the health condition of the partner became clear for a health index among early child rearing period that had been overlooked until now.

研究分野：母子保健

キーワード：子育て期 健康 睡眠 ホルモン動態

1. 研究開始当初の背景

少子化が指摘されて久しく日本社会の重大事項として取り組みが進められるが、低下した出生率の明らかな増加傾向は認めない。子育ての現状と社会の認識とに隔たりをうめる必要があり、産科学(対象は妊娠から出産後6-8週間の産褥期まで)や性差医療(GSH) Women's Health のいずれにも合致しにくく検討が進んでいなかった子育て期女性の健康状態について、現状に即した客観的な観察測定による実態把握が求められていた。

それまでの「子育て期早期の女性は、妊娠出産後まもなくから昼夜を問わない子どもの世話にあたり、睡眠が分断され、健康状態は不良である」(関島 2014)ことを前提として、健康促進にむけた指標を得るべく子育て期女性の内分泌動態、健康状態と親役割獲得過程を視座とした妊娠後期から子育て期早期にわたる生活実態調査を実施した。

2. 研究の目的

調査1 内分泌動態と健康状態の検討
「子育て期早期にある女性は、ホルモン動態、身体状態は妊娠前と同様に回復あるいはそれとは変化しているのか」を、縦断的に明らかにする。

調査2 親役割過程、睡眠と健康状態の検討
初めての子を育てる妊娠期から産後の母親と父親の睡眠をアクチグラフを用いて客観的に明らかにする。

3. 研究の方法

調査1
対象者: 同意が得られた出産後の女性 60 名
方法: 出産後(産褥入院中)産後1ヵ月(N=45) 3ヵ月(N=28)と6ヵ月(N=25)に、独自に作成した自記式調査票(基本属性、産科既往歴等)への記入と血液検体の採取を行った(2016年3~6月)血液検体から血清エストロゲン(E2)、プロゲステロン、卵巣刺激ホルモン(FSH)、黄体化ホルモン(LH)、プロラクチン(PRL)の5種のホルモン値を測定した。所属大学医学部倫理委員会の承認を得た(番号2281)。

調査2
対象者 初めての子を育てる妊娠期から産後の母親と父親 8組

母親と父親それぞれに、妊娠後期・産後1ヵ月・産後3ヵ月の同時期(6日間)にアクチグラフの装着と質問紙の記録を依頼した。質問紙には、対象者の背景、PSQI-J(ピッツバーグ睡眠質問票)、JESS(エプワース眠気尺度)、GHQ12(精神健康調査票)を含めた。睡眠データは解析ソフトでの分析と行動記録をすり合わせ、夜間睡眠の就床・起床時刻、

夜間中途覚醒、日中の睡眠を判別し、平日・休日の平均(標準偏差)を求めた。新潟大学大学院保健学研究科研究倫理審査委員会(第126号)の承認を得た。

4. 研究成果

調査1

出産時の対象者の平均は、年齢 30.4 歳、妊娠 39 週、出生児体重 3,051g で、児の性別、経産初産はほぼ半々だった。帝王切開での出産は 10 名(16.7%)、経済的に困難を感じている者はいなかった。出産時から産後6ヵ月までに月経が回復していたのは 10 名(40%)だった。

女性ホルモン値、主観的健康状態の推移を示す(図1-3)。

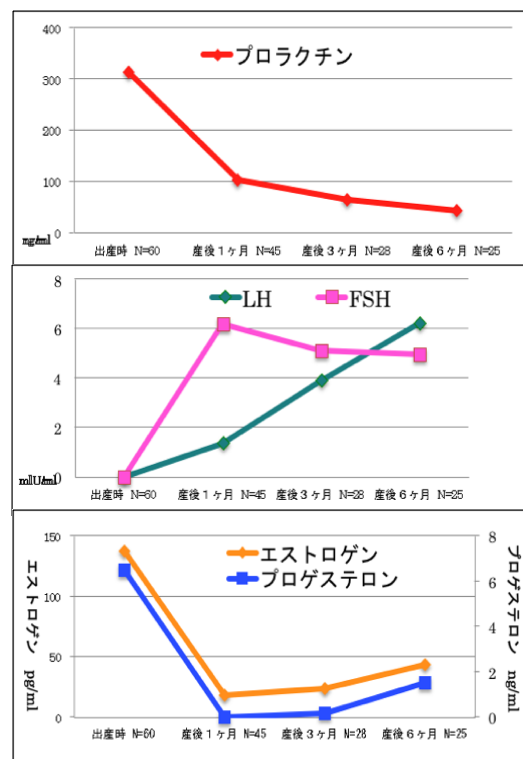


図1 ホルモン値の推移

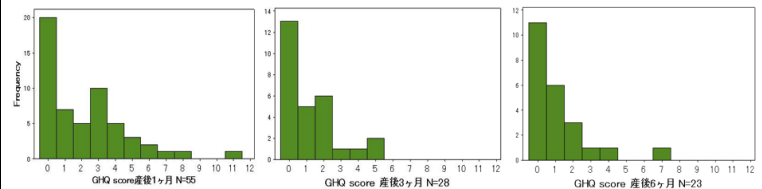


図2 主観的健康観(GHQ12)の推移

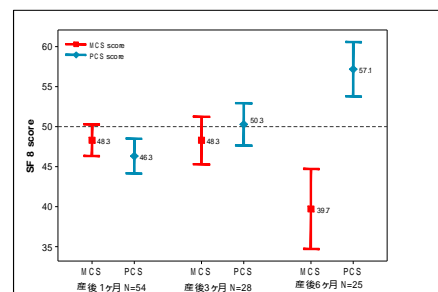


図3 主観的健康観(SF-8)の推移

これらの結果より、妊娠期無月経からの月経周期回復の早期にあたる産後6ヶ月までの時期は、PRL値が高くその他はいずれも低値という、思春期、更年期とも異なる特徴的な内分泌状態であることが客観的に明らかになった。主観的健康状態は産後1か月以降身体面で改善があるものの、精神面では不良に認識していた。成熟期女性の身体バランスに重要な月経の回復していない人が半数以上を占めており、相対的に長期にわたる無月経状態と不良な精神的健康状態との関連が示唆された。

月経の再開は、女性自身でも身体の回復や次子妊娠への目安とできる健康指標として、今後、子育て期女性のより良い健康状態に向けた支援を検討するためには、間脳-下垂体-卵巣系のフィードバックシステムの回復機序の解明、引き続く子育て期での月経再開の時期とその関連要因、月経と健康状態との関連を明らかにする必要がある。

調査2

対象者全て正期産（帝王切開出産2名）で児の異常はなかった。母親全員が母乳を継続し（母乳のみ：産後1か月2組、産後3か月3組）、父親2名は育児休業を取得していた。

母親父親とも就床24時頃、起床は平日母親7時、父親6時半頃、休日はいずれも7時半頃だった。産後1か月は、就床・起床時刻の測定日間の差60分以上が母親（平日休日とも）父親（休日）とも多かった。夜間中途覚醒は、産後1か月は子どもの世話で、母親は90分代、産後3か月も平日40分代、休日60分代、父親の1か月は平日30分代、休日60分代と長かった。産後1か月は母親と父親が夜間同時に中途覚醒した回数も最も多かった（平日0.8回、休日1.4回）。母親は全時期ほぼ全員が日中睡眠をとり、父親は1か月3人、3か月2人がとっていた。PSQI-Jは、母親産後1か月 6.3 ± 4.0 、父親 4.6 ± 1.3 、JESS 15.8 ± 6.3 、 10.5 ± 3.9 と高かった。GHQ12も 3.4 ± 2.3 、 1.8 ± 1.4 と悪かった。



図4 母親と父親の夜間中途覚醒時間(産後1か月・平日休日別)

産後1か月の就床・起床時刻が乱れ、長い夜間中途覚醒時間、主観的な睡眠の質・精神健康の悪さが明らかになり、個人差が大きくも父親も同様であったことより、対象とした睡眠や精神健康状態への支援を充実させていく必要性が指摘できる。出産後1ヶ月頃の身体不調と睡眠不良が明らかになり、これまで見逃されてきた子育て期のパートナーを含む健康促進の視座を含めた健康指標が必要であると考えられた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2件)

関島香代子、子育て期早期における母親のやりたい子育て実現とその関連要因の縦断的検討、母性衛生、査読あり、56(2)、254-263、2015.

http://mol.medicalonline.jp/library/journal/download?GoodsID=cu2mater/2015/005602/003&name=0254-0263j&UserID=133.35.234.30&base=jamas_pdf

関島香代子、子育て期早期の母親のやりたい子育ての実現、日本助産学会誌、査読あり、28(2)、207-217、2014.

DOI: <http://doi.org/10.3418/jjam.28.207>

〔学会発表〕(計 2件)

関島香代子、子育て期早期にある女性の活動と睡眠の縦断調査、第73回日本公衆衛生学会、2014年11月6日、栃木県総合文化センター他(栃木県宇都宮市)。

関島香代子、定方美恵子、子育て期早期にある女性の活動と睡眠状態、第55回日本母性衛生学会、2014年9月13日、幕張メッセ(千葉県千葉市)。

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

取得状況(計 0件)

〔その他〕

ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

関島 香代子 (SEKIJIMA, Kayoko)

新潟大学・医歯学系・准教授

研究者番号: 90323972

(2)研究分担者

吉井 初美 (YOSHII, Hatsumi)

東北大学・医学(系)研究科(研究院)・准教授

研究者番号：10447609

定方 美恵子 (SADAKATA, Mieko)
新潟大学・医歯学系・教授
研究者番号：00179532

渡邊 香奈子 (WATANABE, Kanako)
新潟大学・医歯学系・准教授
研究者番号：80626094

(3)連携研究者

石田 真由美 (ISHIDA, Mayumi)
新潟大学・医歯学系・助教
研究者番号：40361894

西方 真弓 (NISHIKATA, Mayumi)
新潟大学・医歯学系・助教
研究者番号：90405051

(4)研究協力者

大矢 典子 (OYA, Noriko)

本多 晃 (HONDA, Akira)

堀井 恵美 (HORII, Emi)

小寺 由理 (KODERA, Yuri)

MaIshani L. Pathirathna (PATHIRATHNA, L.
MaIshani)

高橋 智恵 (TAKAHASHI, Tomoe)